

たつの市
障害福祉サービス
事業所アンケート調査
結果報告書

令和5年12月

たつの市

目 次

1	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査方法	1
3.	回収状況	1
4.	報告書の見方	1
2	調査結果	2
問1	令和5年9月1日現在の貴事業所についてご記入ください。	2
問2	現在、実施しているサービスの種類に○をつけ、令和5年8月中の定員数、利用者数、利用者のうちのたつの市民の人数をご記入ください。	3
問3	今後（令和5年9月以降）、新たに実施を予定しているサービスをご記入ください。	4
問4	貴施設・事業所では、今後サービス利用を希望する人数がどのように変化すると見込んでいますか。（○は1つだけ）	4
問5	業務量に対する職員（人手）の充足具合	5
問6	（問5で2、3、4と回答した施設・事業所のみ）不足と感じる理由	5
問7	（問6で1と回答した施設・事業所のみ）離職する主な理由について	6
問8	経営上の課題について	7
問9	サービスの向上のための取り組みについて	8
問10	今後の事業運営にあたって、どのような支援が必要か	9
問11	利用者やその家族からあげられる苦情や相談はどのようなものが多いですか。	10
問12	他の市町に比べて、たつの市に不足していると思われるサービスや支援はどのようなものがありますか。	11
問13	災害時、利用者（契約者）に対して、どのような支援が可能とお考えですか	12
問14	災害時、利用者（契約者）以外の障害者に対して、どのような支援が可能とお考えですか	12
問15	災害時の支援体制について、施設内での取り決めはありますか。	13
問16	福祉避難所として、市と協定を締結している施設のみお答えください。福祉避難所を開設する必要が生じた場合に、たつの市に希望する支援はどのようなことがありますか。	13
問17	事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の策定状況について、教えてください。	14
問18	地域における住民、団体、ボランティア等との関わりについて	15
問19	貴事業所に入所されている「たつの市の方」が3年後希望する生活、地域生活への移行が見込める方の人数などについてご記入ください。	17
問20	地域生活への移行が見込める人数	17
問21	貴事業所において、入所者の地域生活への移行を進めていく上で、障壁となっていること、また課題となっていることについてご意見をお聞かせください。	18
問22	障害のある人を取り巻く現状や身近で感じている課題、たつの市に希望することなどについて、自由にお書きください。	19

1 調査概要

1. 調査の目的

障害福祉サービスを提供する事業所の経営の状況や事業計画等を把握し、計画策定の基礎資料とするため。

2. 調査方法

(1) 調査対象

市内にある障害福祉サービス事業所の全数

(2) 調査方法及び調査時期

調査方法は、メールによるエクセルファイルの送信、受信

調査時期は、令和5年9月27日から10月12日まで

3. 回収状況

対象事業所数	有効回答数	有効回答率
56 事業所※	36 件	64.3%

※複数の事業所がある法人が法人単位で回答された場合、1事業所としています。

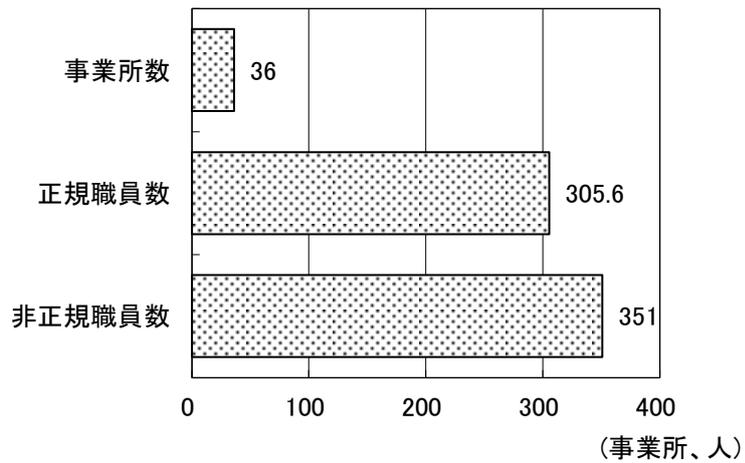
4. 報告書の数字について

母数が少ないため、グラフの数字は、事業所数や人数などの実数にしています。

2 調査結果

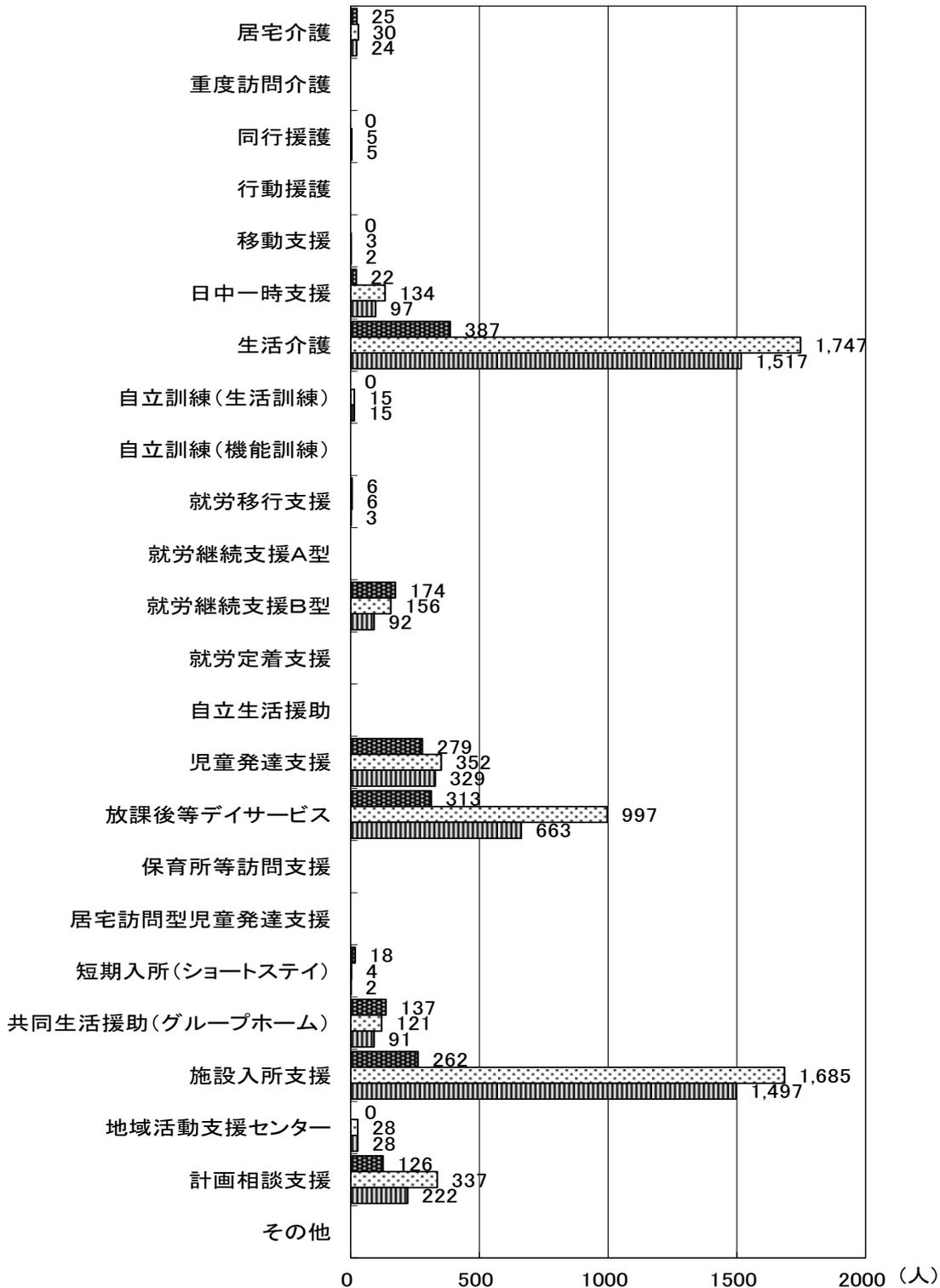
問1 令和5年9月1日現在の貴事業所についてご記入ください。

回答した事業所数は36事業所、働いている正規職員は305.6人、非正規職員は351人です。



問2 現在、実施しているサービスの種類に○をつけ、令和5年8月中の定員数、利用者数、利用者のうちのたつの市民の人数をご記入ください。

36事業所の定員数、利用者数等を合算したものが以下のグラフです。「生活介護」が定員数387人、8月の利用者数1,747人で最も多くなっています。次に利用者数が多いのが「施設入所支援」、次が「放課後等デイサービス」となっています。



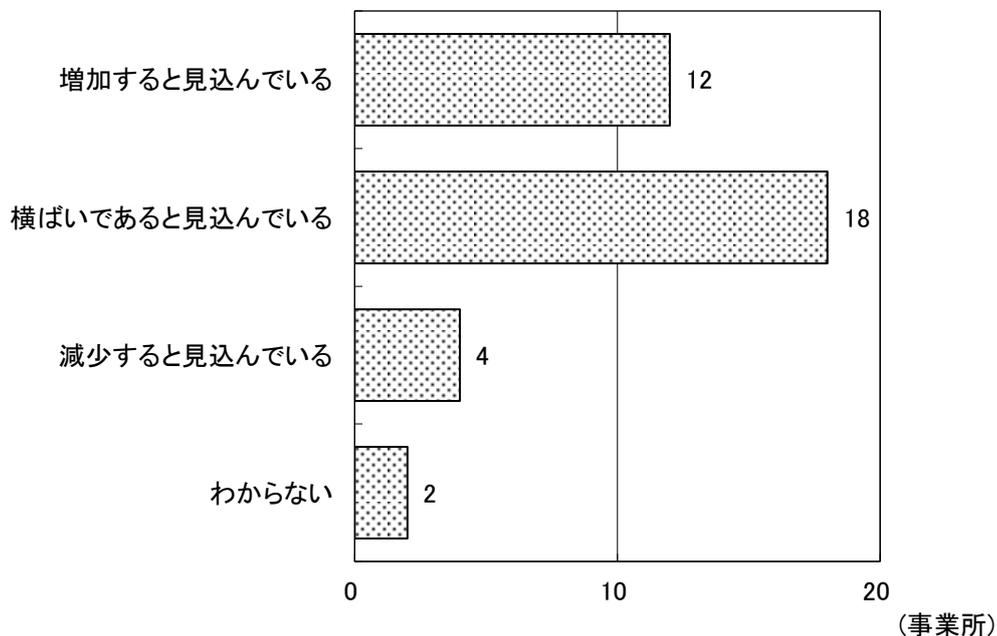
問3 今後（令和5年9月以降）、新たに実施を予定しているサービスをご記入ください。

新たなサービスの実施予定については、以下の2つがあがっていました。

	定員	開始時期
就労継続支援B型	10名	令和9年4月予定
放課後等デイサービス	10名	令和8年4月予定

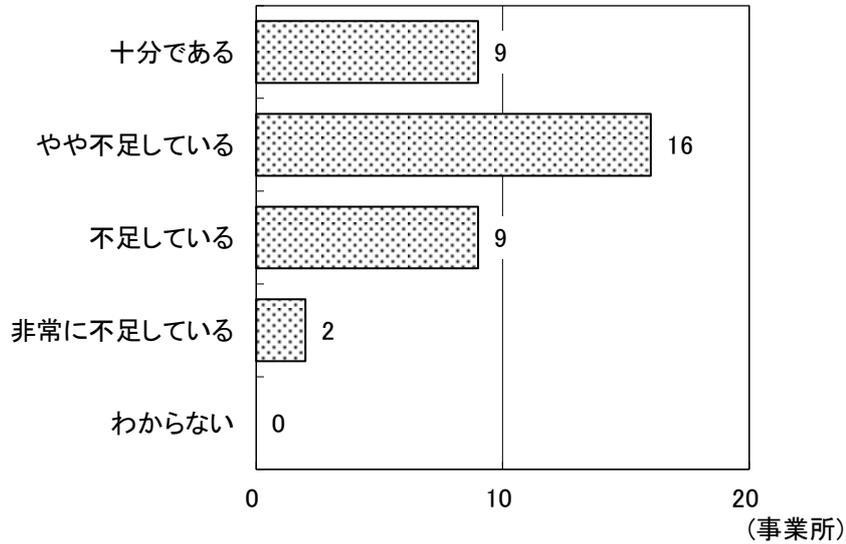
問4 貴施設・事業所では、今後サービス利用を希望する人数がどのように変化すると見込んでいますか。（○は1つだけ）

今後のサービス利用の希望者数の見込みでは、「横ばいであるの見込んでいる」が最も多く、次が「増加すると見込んでいる」です。



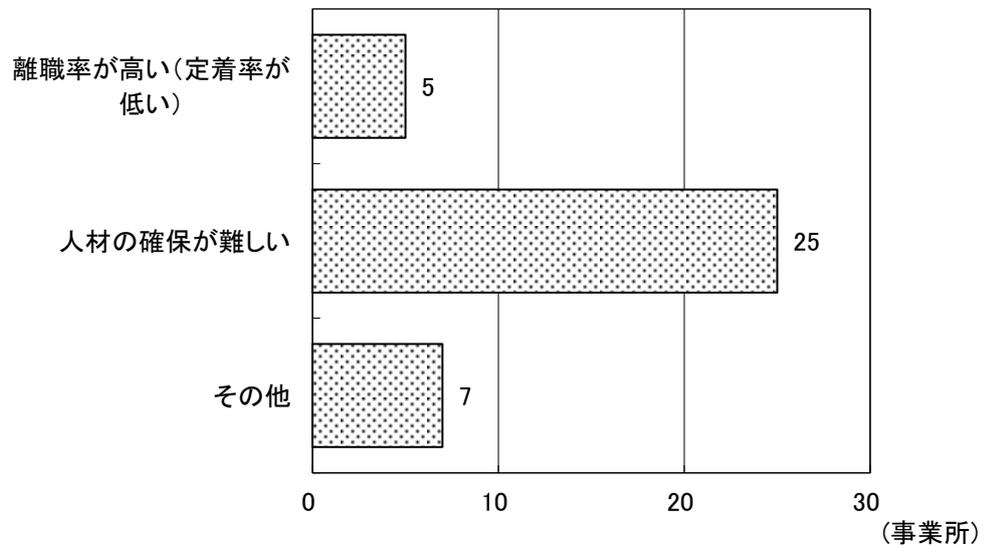
問5 業務量に対する職員（人手）の充足具合

職員の充足具合については、「やや不足している」が最も多く、「不足している」と合わせると 25 事業所、およそ 7 割が、不足していると回答しています。



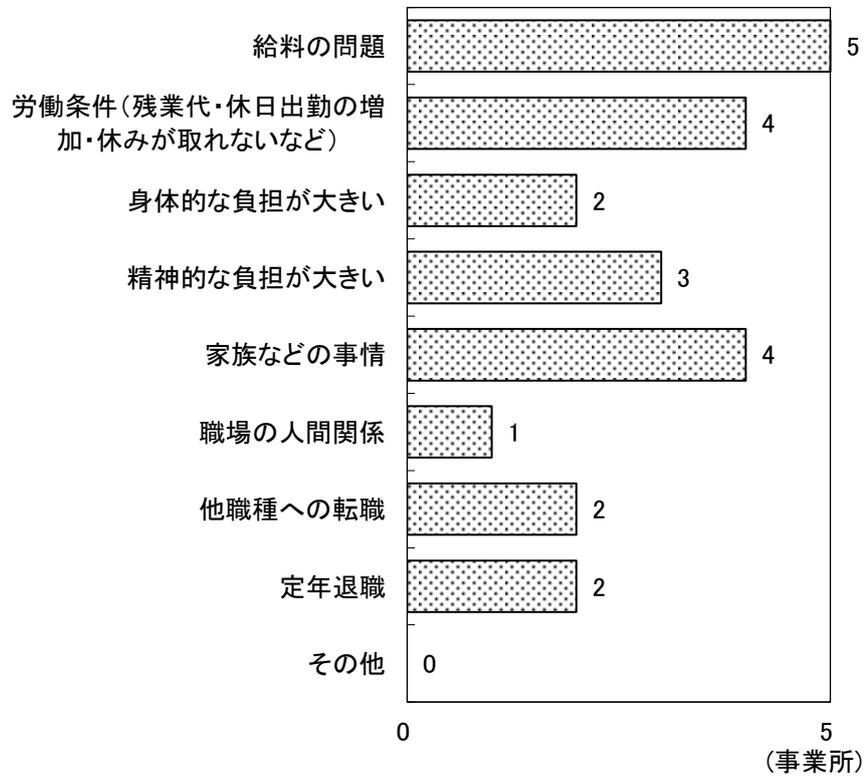
問6 (問5で2、3、4と回答した施設・事業所のみ) 不足と感じる理由

人手不足の理由としては、「人材の確保が難しい」が特に多くなっています。



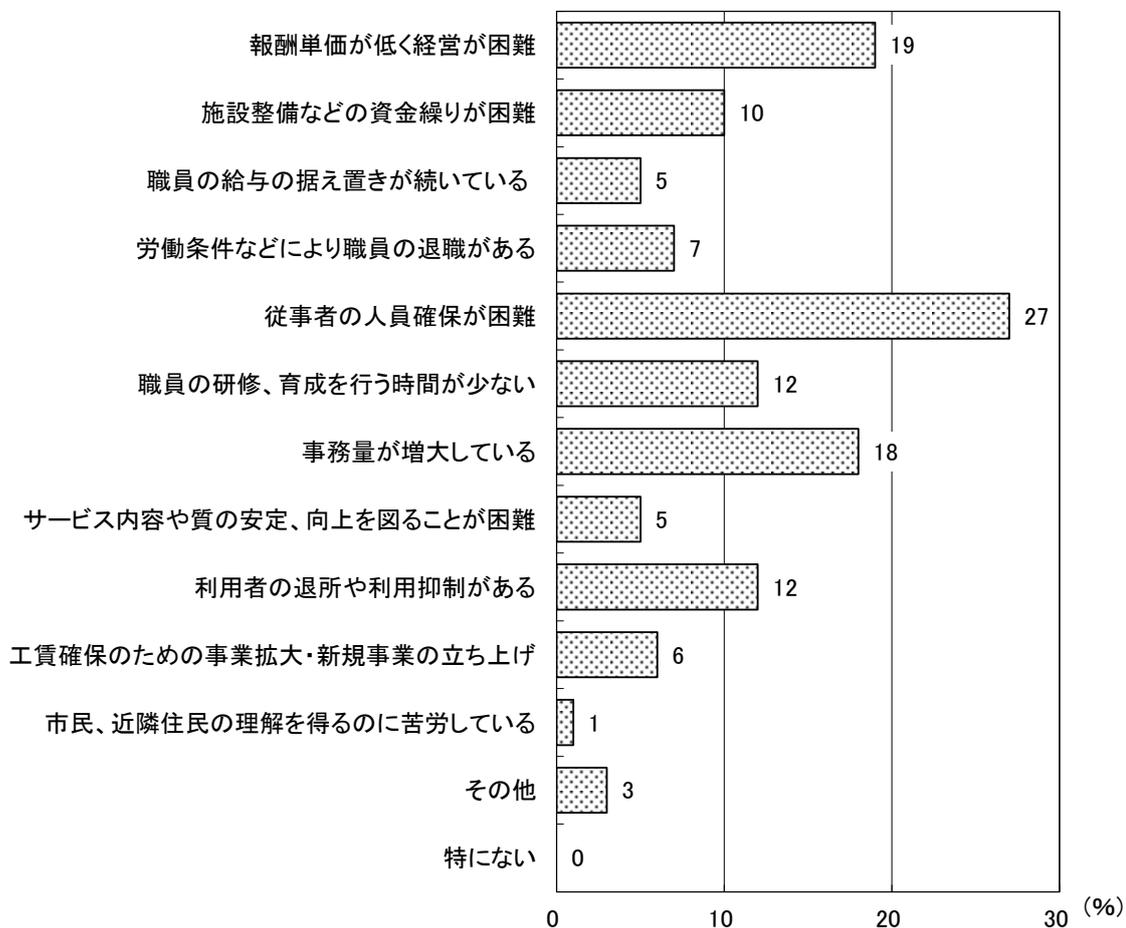
問7（問6で1と回答した施設・事業所のみ）離職する主な理由について

職員の離職理由については、「給料の問題」「労働条件（残業代・休日出勤の増加・休みが取れないなど）」「家族などの事情」が多くなっています。



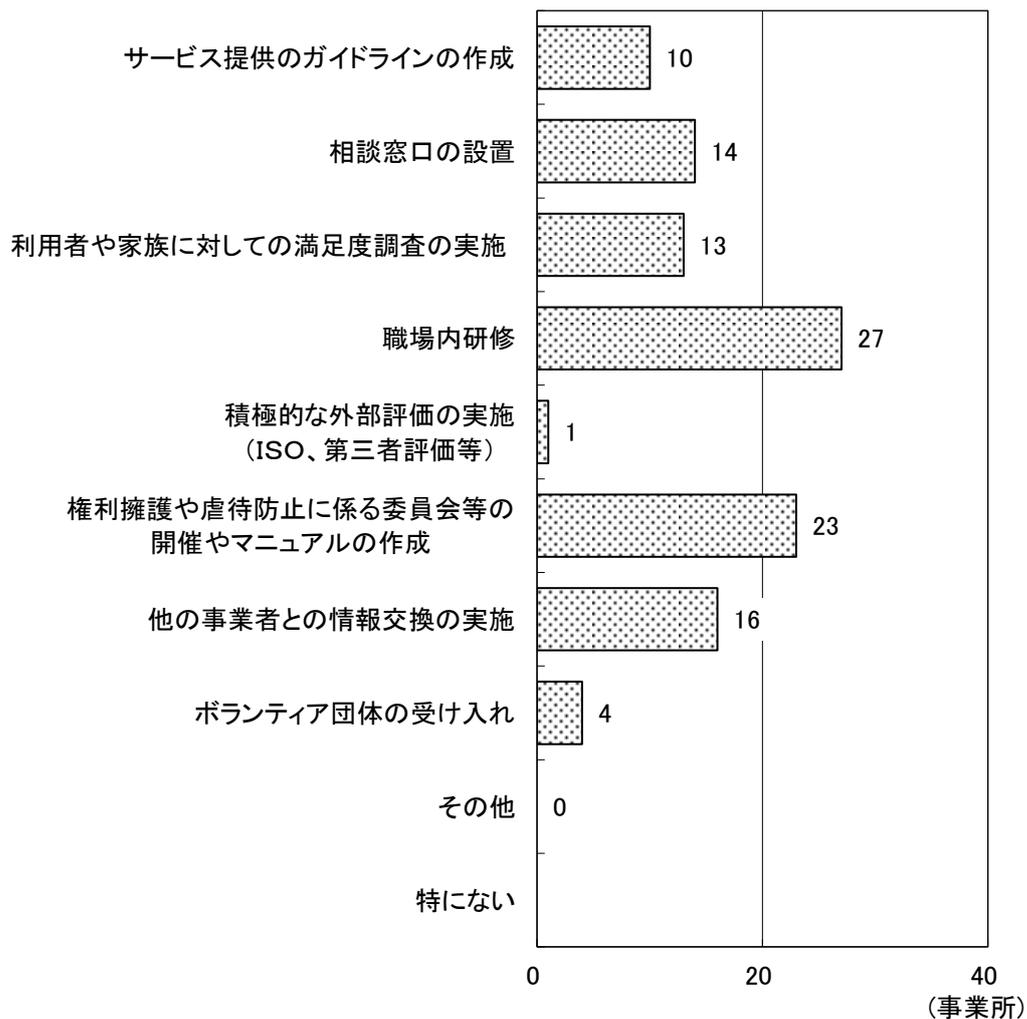
問8 経営上の課題について

経営上の課題としては、「従事者の人員確保が困難」が最も多く、次が「報酬単価が低く経営が困難」「事務量が增大している」などとなっている。



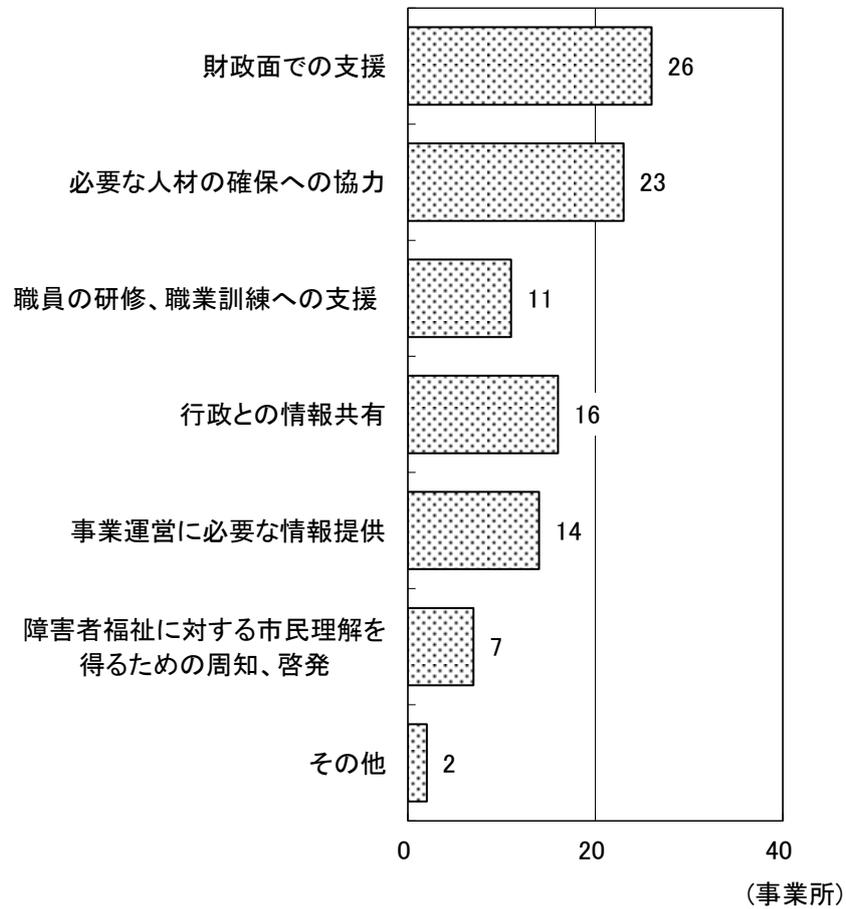
問9 サービスの向上のための取り組みについて

サービスの向上のために行っている取り組みとしては、「職場内研修」が最も多く、次が「権利擁護や虐待防止に係る委員会等の開催やマニュアルの作成」「他の事業者との情報交換の実施」となっている。



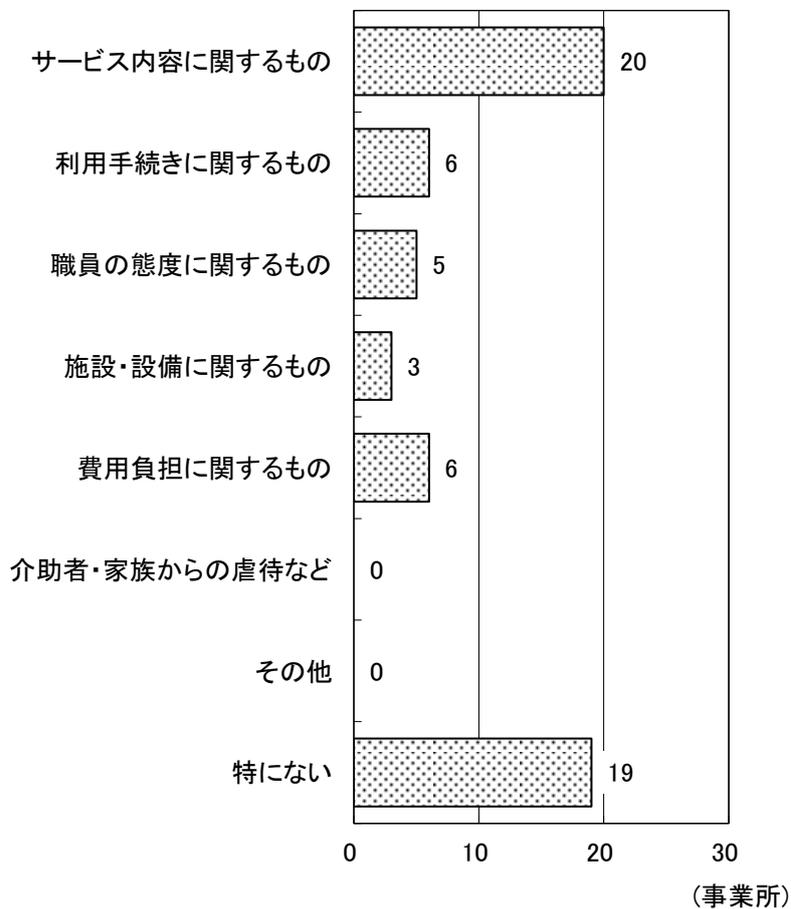
問10 今後の事業運営にあたって、どのような支援が必要か

事業運営に必要な支援としては、「財政面での支援」が最も多く、次が「必要な人材の確保への協力」である。



問11 利用者やその家族からあげられる苦情や相談はどのようなものが多いですか。

利用者やその家族からあげられる苦情や相談の内容としては、「サービス内容に関するもの」が、特に多い。

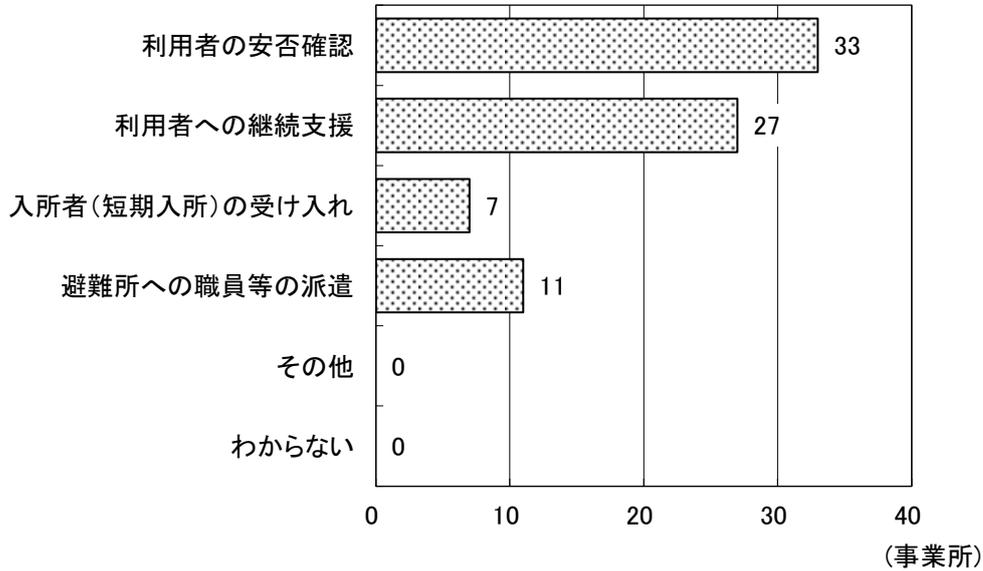


問 12 他の市町に比べて、たつの市に不足していると思われるサービスや支援はどのようなものがありますか。

異存ございません。
現在、 での療育相談や病院での心理士の発達検査、医師の診断は、長期の予約待ちの現状です。保護者が相談したいと思いついた時、速やかに、相談、発達検査、診断そして療育へと一体的に利用できるたつの市独自の施設があれば、タイミングを逃さずより利用しやすくなるのではと思う。
個別サポート加算Ⅰが導入され、保護者が規程のチェックシートに回答した結果で対象か否か判断されてはいるが、実際妥当な判断ではない場合がある。介助等が必要なのについていないこともある。児発は他市町では一律つけている場合もあるが、たつの市は良くも悪くもマニュアル通り感はある。（対応人数が多い等状況は違うが）
事業所が足りてなく、療育保留の子たちがいます。
事業所同士の繋がりが薄く感じる。
児童発達支援から放課後等デイサービスに移行するときに、同等のサービスを受ける場所が少ない。（放課後等デイサービスが集団訓練に偏っている）
障がい児が利用できるサービス少ない。（タイムケア・移動支援）タイムケアは、某小学校でされていると思いますが、たつの市全体への周知されていない。 たつの市の中で、雨天時に利用できる遊ぶ場所がない。 児童発達支援は、幼稚園・保育園・子ども園との連携 放課後等デイサービスは、小学校、中学校、高校との連携（トライアングル実施されているが、他市町に比べて弱い） 保育所等訪問支援は、行政から訪問先への理解を推進。学校関係者から制度が知らない方がいられる。行政からのアプローチをしてほしいです。 行政の中で、福祉と教育の連携をしてほしいです。他の市町より連携ができていない。連携している場合、実績、現状が詳細にわからない。 研修も実施されていますが、頻度や周知が少ない。
他の市町に比べて、たつの市は支援状況は良いと思われる。
他の市町の情報がわかりません。
特にサービス等不足しているとは思いません。ただ事業に従事する支援者不足は、たつの市だけでなく福祉の現場において今後も切実な課題とは思います。
特になし
特になし
特になし
特になし
日中一時支援の指定ができる事業所要件を見直して欲しい。（通所系の事業所可能等）
日中支援型のグループホーム・就労継続支援A型・訪問系
他の市町に比べて、たつの市に不足していると思われることは聞いたことがないです。
利用者への交通費の支給

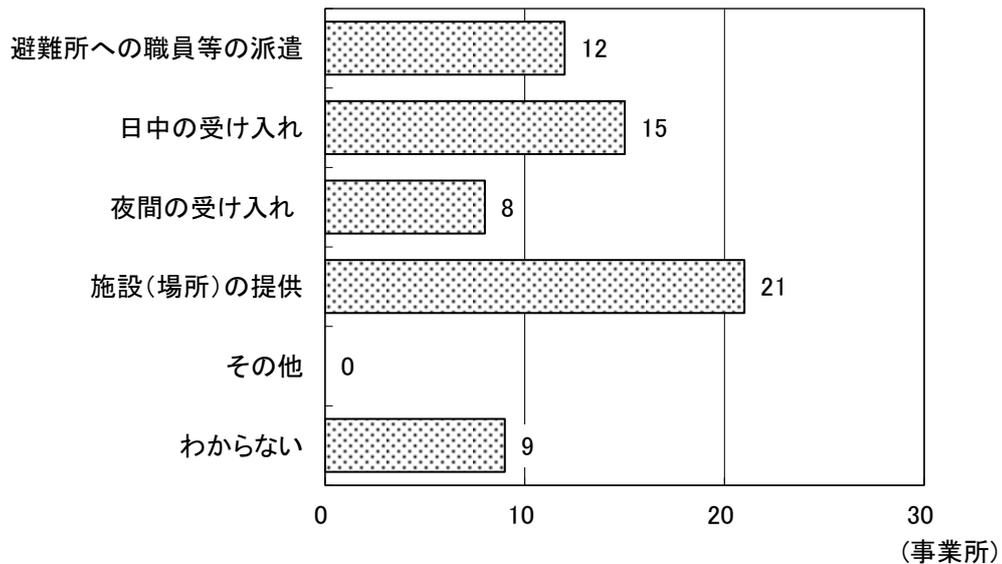
問 13 災害時、利用者（契約者）に対して、どのような支援が可能とお考えですか

災害時に可能な利用への支援としては、「利用者の安否確認」が最も多く、次が「利用者への継続支援」である。



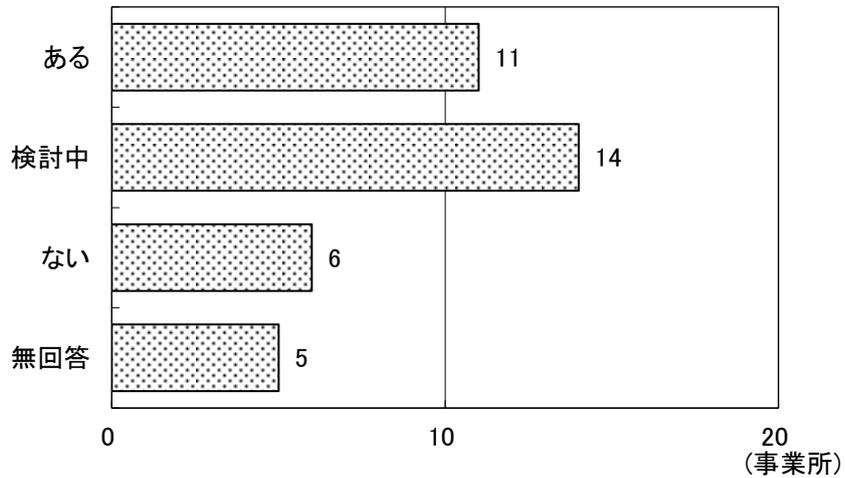
問 14 災害時、利用者（契約者）以外の障害者に対して、どのような支援が可能とお考えですか

利用者以外の障害者に対する支援としては、「施設（場所）の提供」が最も多く、次が「日中の受け入れ」である。



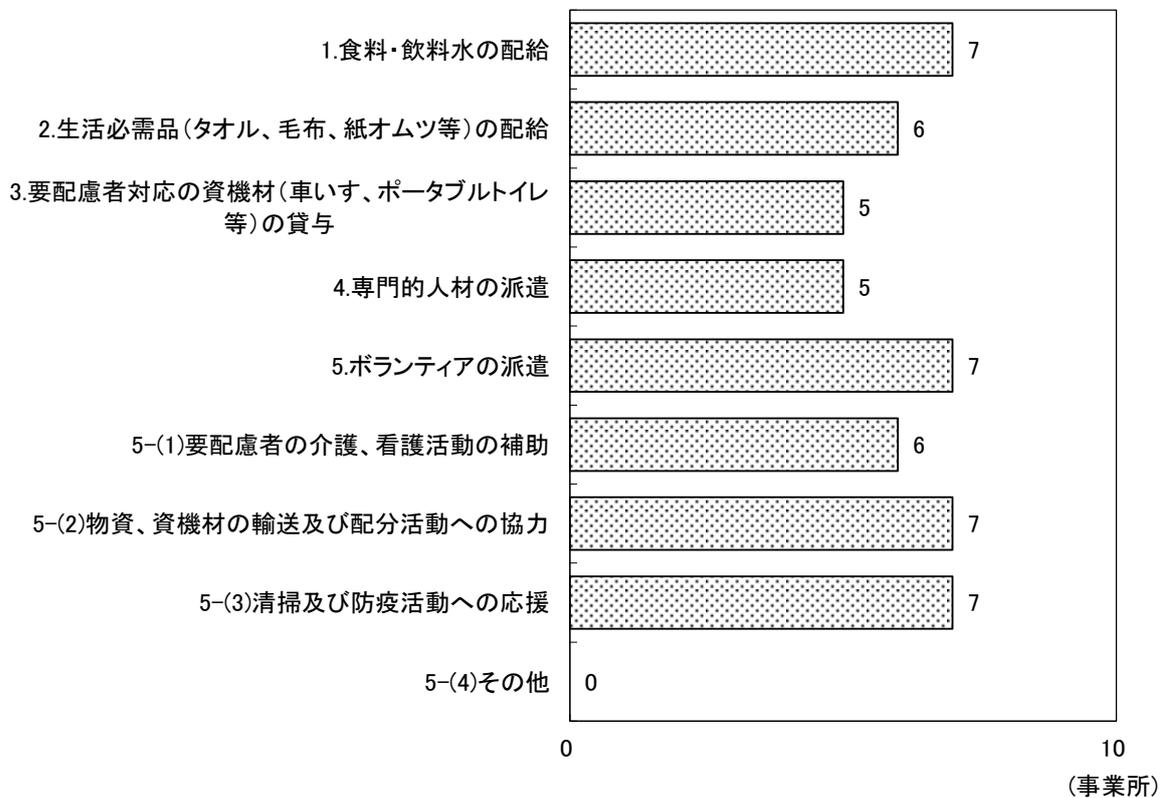
問 15 災害時の支援体制について、施設内での取り決めはありますか。

災害時の支援体制について施設内での取り決めがある事業所は、11 事業所である。



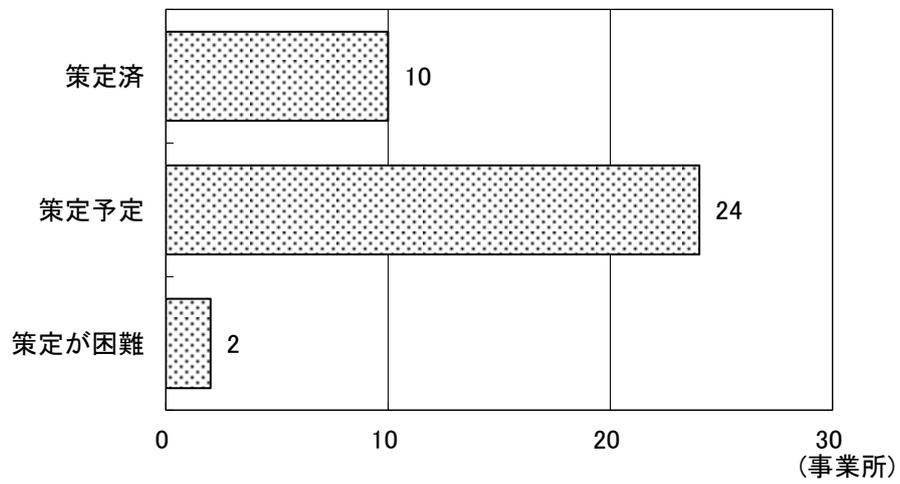
問 16 福祉避難所として、市と協定を締結している施設のみお答えください。福祉避難所を開設する必要が生じた場合に、たつの市に希望する支援はどのようなことがありますか。

福祉避難所を開設する場合に市に希望する支援としては、「食料・飲料水の配給」および「ボランティアの派遣」が多い。



問 17 事業継続計画 (BCP : Business Continuity Plan) の策定状況について、教えてください。

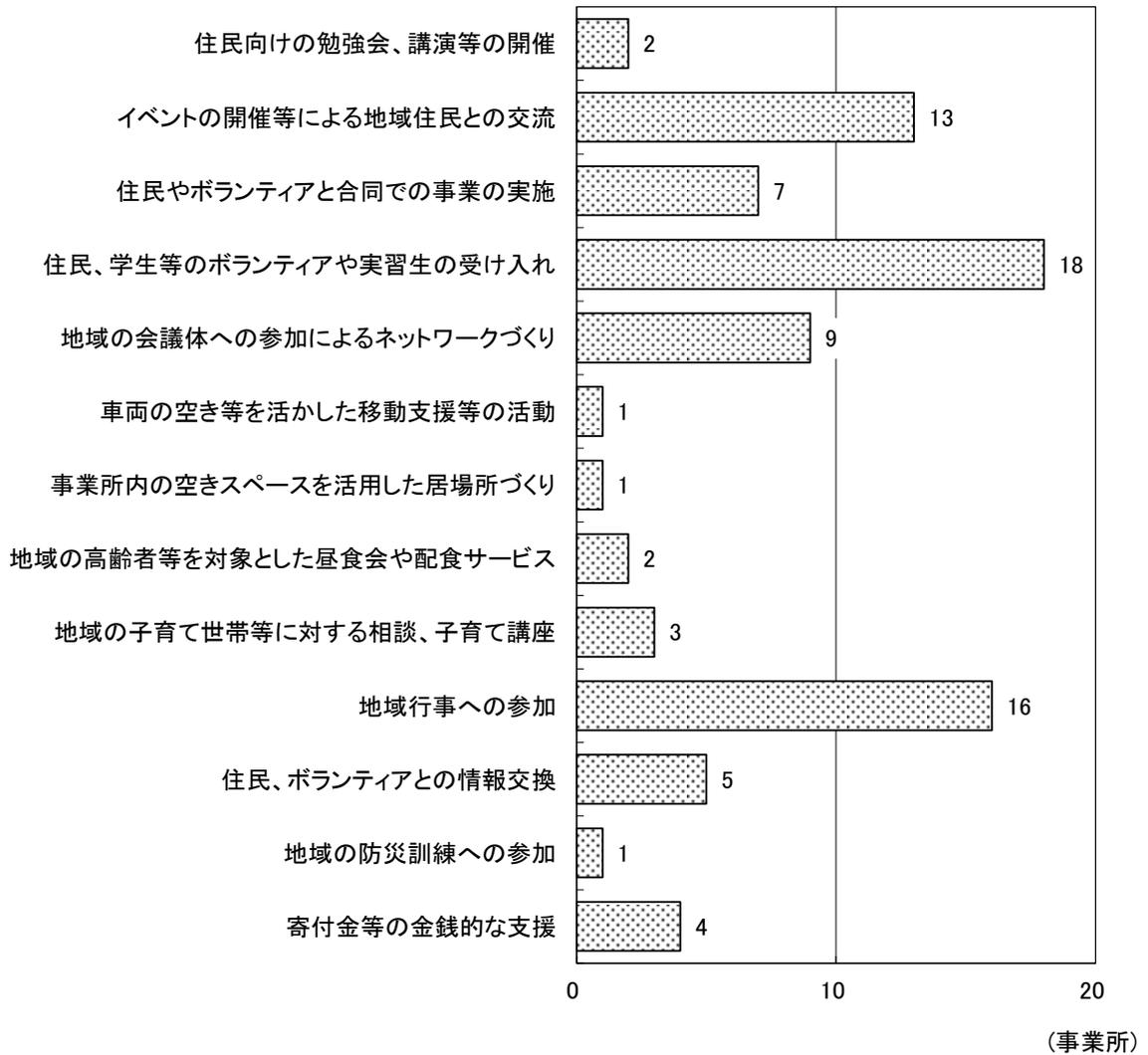
事業継続計画を策定済の事業所は、10 事業所である。



問 18 地域における住民、団体、ボランティア等との関わりについて

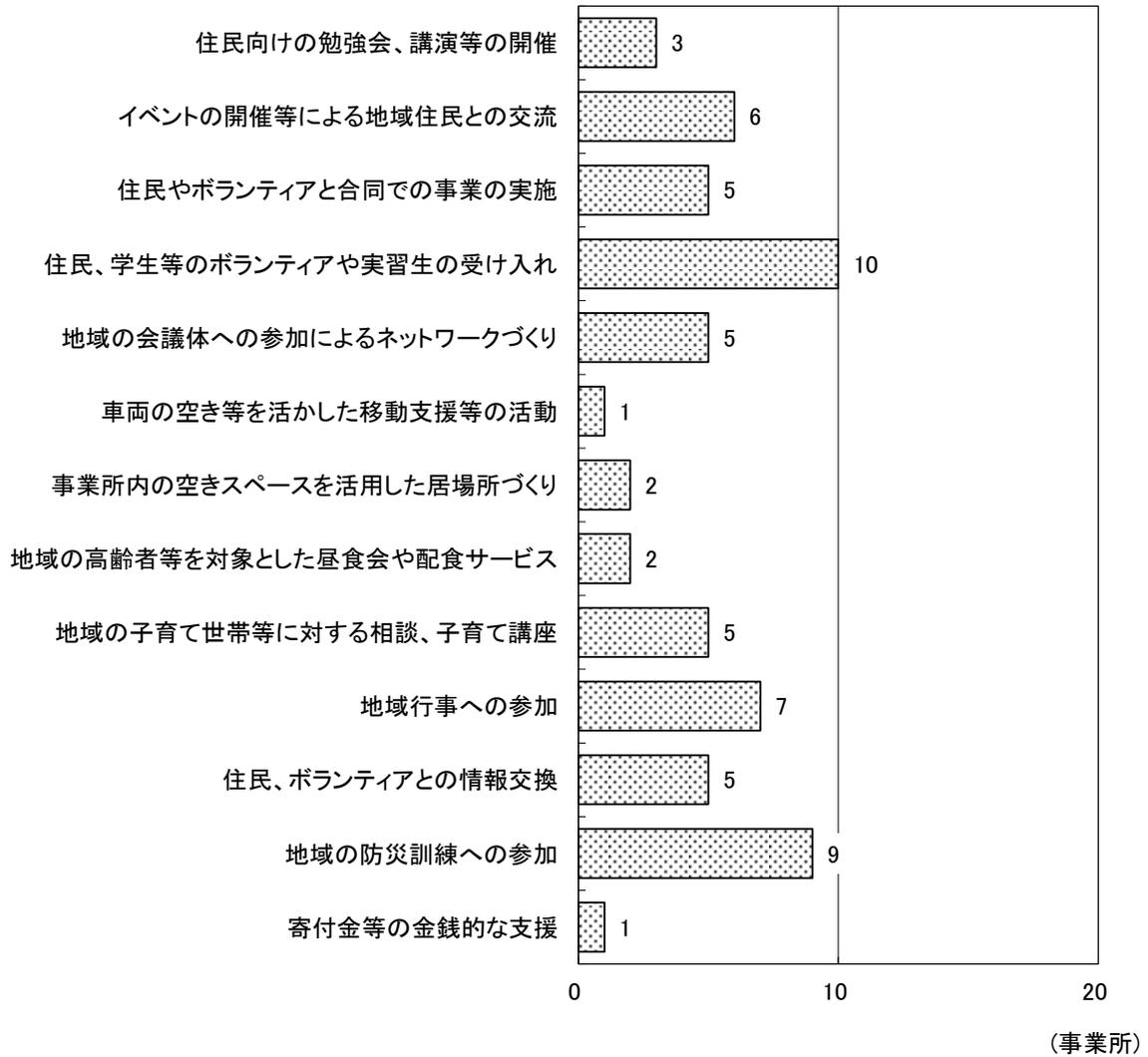
①どのようなことを行っていますか。

地域における住民、団体、ボランティア等との関わり方としては、「住民、学生等のボランティアや実習生の受け入れ」が最も多く、次が「地域行事への参加」「イベントの開催等による地域住民との交流」と続いている。



②また、これから行えることはありますか。

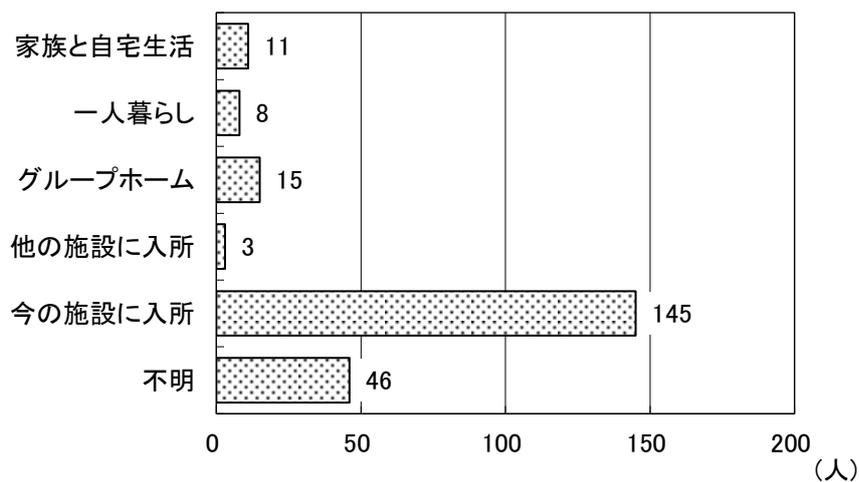
今後、行うことができる取組としては、「住民、学生等のボランティアや実習生の受け入れ」が最も多く、次が「地域の防災訓練への参加」である。



問 19 貴事業所に入所されている「たつの市の方」が3年後希望する生活、地域生活への移行が見込める方の人数などについてご記入ください。

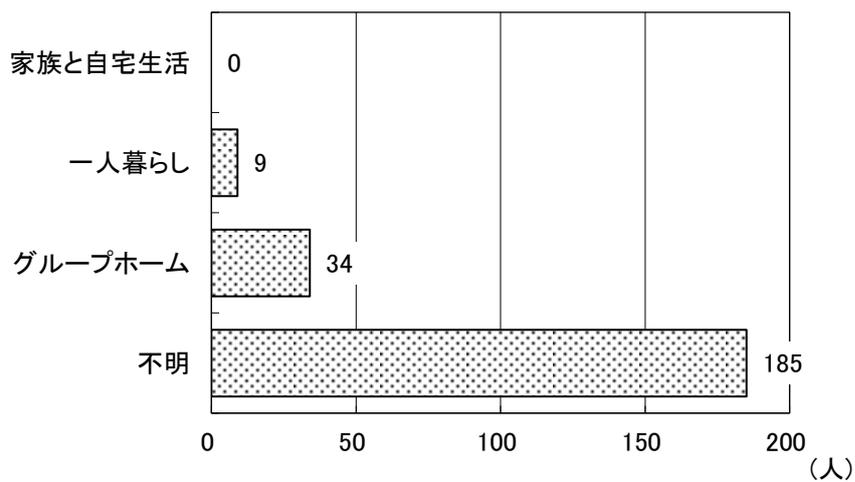
①3年後希望する生活の場ごとの人数

「今の施設に入所」が大半を占めている



問 20 地域生活への移行が見込める人数

地域生活への移行が見込める人数は、不明を除き、「グループホーム」が最も多い。



問 21 貴事業所において、入所者の地域生活への移行を進めていく上で、障壁となっていること、また課題となっていることについてご意見をお聞かせください。

経済的理由と本人の意欲、家族の理解
現状の生活に不満を感じていないのか、本人や保護者からの要望がない
ご家族の理解、地域住民の理解、重度の方のグループホーム等の受け皿の確保
障害支援区分が基本的に5以上であるので、夜間における支援も必要となる。夜勤者1名に対し、少人数でのグループホームとなれば、運営上、設備上、人員配置上、効率的とはいえない。入所施設での夜勤は3名の人員がおり、一人当たりにおいては少人数ではあるが、複数人の協力と設備的な充実があり利用者支援という観点からは入所施設の方が手厚いといえる。
身体的機能、経済的自立、家族や地域の理解、サービス体制
地域生活をしていた方が、その生活が困難となり入所されているから。
1人暮らし用の支援マニュアルやプログラム等、基準がないことが不安である
利用者の重度・高齢化に伴い、家庭での生活は困難であり、グループホームへの移行は支援者の確保が困難である。

問 22 障害のある人を取り巻く現状や身近で感じている課題、たつの市に希望することなどについて、自由にお書きください。

①保健・医療について

<ul style="list-style-type: none"> ・医療費の無償化。 ・障害者の健康診断費用の助成があれば、もっと検診率があがると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・検診で気になったお子さんが療育につながる際の情報提供依頼。 ・園で気になっているが、療育の利用まで必要のない子についての、園や家庭での支援についての体制を整える。
<p>医療機関への通院（無料送迎等） 医療機関職員による院内介助</p>
<p>救急搬送が出来る医療機関が少ないように思う。</p>
<p>検診：障害の早期発見、早期療育を行うべき。検診で声を掛けられたら自ら連絡する流れだが、子育ての支援の一つとして全ての保護者に子育てに困ることがあるなら、児童発達支援に通うことが一つの選択肢として伝えるべき。</p>
<p>子育てに関する健診や療育相談などの体制は、整っている。しかし発達検査や診断のできる医療機関が少なく、長期の予約待ちになる現状で、病院につながるまでに期間を要することになるので、利用のハードルが高くなる。相談、診察のできる医療機関が身近にあればと感じる。</p>
<p>障害のある方の入院の受け入れが難しい。入院が受け入れられても付き添い等が必要な場合、高齢のご家族では難しい。</p>
<p>早期療育について 各年齢の健診後、対象となるお子さんがピックアップされ行政の親子活動に参加されていますが、療育に繋がるのが遅いと感じます。集団（子ども園・幼稚園・保育園）に行かないと分からないこともありますが、集団に行く前に小集団の療育が必要（保護者の障がいに対する理解や認知はそれぞれのペースがあると思いますが。）行政と事業所が今以上に協力体制が必要では？（事業所の職員派遣・施設見学等、賛否ありますが。）</p>
<p>相談できる窓口が具体的であってほしい。 内容によっては、どこに行ってもいいのかわからない、たらいまわしにされるなどがあると、そこで足が止まり、相談をすることができなくなります。</p>
<p>1人暮らしの方に情報が提供できていない</p>
<p>保護者のいない利用者が入院、手術等受ける場合の各種同意書について、医療機関によっては「家族の同意が必要」とされるケースがある。どのように対応すれば良いか教えて頂きたい</p>

②生活環境の整備について

<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の無償化。 ・AEDを各施設に配布して欲しい。
<p>あかねちゃんは便利ではあるが、車いすで乗車できないのが不便。車いすの方が一人で外出できる手段があればいいと思う</p>
<p>雨天時子どもが利用できる公共施設がない。 遊び場があれば地域の方との交流ができる。</p>
<p>車いすでの移動は一人ではできにくい。 道路の幅、公共の交通手段 かとして、毎回介護タクシーを使うほど生活は豊かではない。</p>
<p>地域での防災訓練の機会があれば参加したい。</p>
<p>バリアフリーではない環境が多い 車椅子ユーザーはあかねちゃんに乗車できない 施設入所者はタクシ券がもらえない</p>
<p>移動手段が限られている。コミバスの運行時間が少ない。コミバスの停留所までの距離が遠い。 立地的に水害が懸念される（夜間職員不在）</p>

③相談・情報提供について

・保護者支援が必要な家庭や、頼る人がいない家庭についての、状況把握。
・民生委員の知識不足解消のため教育と人選の改善。（少し前のことですが・・・）
各地区にて温度差があるように感じる
支援が届きにくい状況にある方へのバックアップ体制
地域や人とのつながりが希薄な方への情報提供
民生委員の方たちの専門的な知識や経験が乏しいことがある。

④住まい・住宅の確保について

・グループホームの不足と費用が高額であること。 ・宿泊訓練をもっと活用し、保護者にGHの利用を勧める必要があると感じます。もっと便利な場所にGHがあればいいと思います。
空き家の活用（地域生活に向けての訓練等ができる場所）
グループホーム不足
就労継続支援B型利用の方々は低収入に加え、若い層は預金も少ない状況。その中で、グループホーム利用の方も多く、利用料・家賃等出費で節約生活を余儀なくされているケースもある。現状の家賃助成等見直し更なる公的援助があれば有難いです。
地域の受け入れと理解が難しい。

⑤雇用・就労について

・公共よりの委託作業・授産品の購入が少ない。 ・インボイス制度により工賃が減少する。
・利用者の働く場が少ない ・公共交通機関が少なく、働く場や生活の場が限られる。
一般企業に就労しても、いじめなどを理由にやめているケースを多く聞きます。経営側が障がいに対して理解されていても、すべての従業員が同じ気持ちをもって接してくれているかは正直難しいと思います。
就労移行事業を通じ、知的障害者の就労に難しさを感じた。グループホーム利用の方々は就労継続B型等の単純作業が主の事業所に偏る傾向にあるが、年間通し、作業が充実しているとは言えない現状。コンスタントに仕事があり、利用者の給料に反映するためにも作業開拓が課題となっている。地場産業や近隣の事業所等に理解を頂き、両者にとってメリットのある関係を築けたら良いのだが・・・。
新型コロナの期間が長く、地域との交流機会が減少したが5類感染症になり、交流の機会が増えることで障害者理解につながる
生活介護施設であって就労施設でない
たつの市での求人が少なく、ハローワークに情報が集まっていない
就労に通う手段が少なく、利用できる範囲が限られている。

⑥災害時の支援について

・施設が破損した場合の復興への金銭支援。 ・ハザードマップ（防災マップ）に高齢者や障害者の施設を組み込み、支援が必要な方がそこにいることを予め知ってもらう。
BCP策定したとしても、大災害となれば職員の通勤もままならない
災害発生時（後）の避難所への避難において、強度行動障害等配慮が必要な利用者さんがその場で過ごすためにはどうしたら良いか。

地域住民による共助
直接被災しなくても、ライフラインが止まる可能性がある。その時の支援が難しいことが想定される。給水車の派遣や復旧までの期間等について共有しておきたい。
問16にて回答

⑦障害への理解と交流について

・ボランティアを増やし、障害者の交流や理解の機会を増やす。
コロナ以降、感染防止やボランティアの高齢化による解散等で地域交流が実質進んでいない。今後の地域交流をどのように進めていくべきかが課題である。
市の方から要望、場所作りをして頂ければどのようなものか、説明を受け交流してみたい。地域の交流は大切だと思います。
障害者の婚活、結婚問題
積極的に地域行事への参加とボランティアの受け入れ
地域への受け入れと理解を得る事においてなかなか進んでいない。地域の行事にも参加できていない状況です。

⑧教育・保育について

・学校で毎日やっていないのか、掃除をする習慣のない利用者が多い。
・専門家が保育園や幼稚園、こども園を巡回してその場で指導及び児童発達支援につなげる流れを構築する。
加配をつけて支援が必要な園児、児童は増えている事への対応。 就学指導で診断書が必要(他市では必須ではない)だが、検査等で本人の状態が把握できれば、判断できる体制を検討していかなければ、診断書をもらうための医療機関はなく、療育相談でも対応しきれなくなっている。
行政の中で教育と福祉の連携が進んでいない。(赤穂市や太子町等他の地域の取り組みを参考にしているか) 保育所等訪問支援の周知 行政から訪問先へのアプローチ(教育委員会との連携)事業所で説明を行っていますが、理解やあまり協力的ではない。
支援学校の児童の放課後の過ごし方について、複数の事業所を利用しているかたが多く、本人の負担になっている。 支援級在籍の子が学童の利用をするための、理解と環境の調整などの支援体勢の充実と人材の確保。 療育でしていることが、外部に分かりづらいので、園や学校からの見学を行うなどして、共有を図る。
たつの市は、放課後等デイサービスの事業所が多く利用者の必要性に応じて利用できていると思う。 市として療法士(言語聴覚士や作業療法士)を配置してもらえると、様々な市の相談事業や支援事業に従事でき、支援が広がると思う。
特になし
福祉サービスを適切に利用できるように体制を整えて欲しい
身近で学校に行けない、行けなくなったという話をよく耳にするようになりました。彼らの受け皿と学校に行けるように支援する方法をどのようにお考えなのかを聞きたいです。また、絞りにくいかと思いますが原因は何かを調査してもらいたいです。

⑨生涯学習活動について

<ul style="list-style-type: none">・毎年行っているアートプロジェクトに助成してほしい。・定期的に市が主催する障害者スポーツ体験や教室があれば良い。
赤とんぼホールでのコンサート等、利用しています。利用者には職員が付き添う必要があり、映画のチケットのように、二人で一人分などなれば、より利用しやすくなります。
たつの市では、ユニバーサルスポーツ『らくスポ』など、誰でも参加できるレクリエーションやスポーツイベントが開催されている。今後も体験や交流の機会が増えていくと良いと思う。
特になし

⑩その他

意見等が思い当たらず、申し訳ありません。何時も柔軟な対応をして頂き、利用者の方々も事業所も助かっています。
異存ございません。
施設の建設費への助成。 サービス費請求書類（実績記録）への押印の取りやめ。 研修旅行のバス費用の助成。
問 12 でも記入しましたが、宍粟市では障害施設へ通うための交通費が支給されます。障害年金、交通費、作業工賃で安定した生活を確保できれば、もっと安心して守られた環境で、生活できるのではないかと考えます。
特別支援学校（児童養護施設）を卒業した利用者を GH で受け入れる場合、年齢的に障害基礎年金が受給できない為、金銭的に困窮し生活保護を申請しないといけないケースがある。自治体での資金援助があれば。
福祉系の学生が、地元の福祉施設に就職してもらえるような事は難しいか・・・。一般企業にへたくさん行かれていると聞いている・・・。
利用児童の数や、状態等の均等化をはかってほしい。当社では暴れるなど大変な児童が多く一人の児童に職員 2 名を配置しなければほかの児童にけがをさせる恐れもある。どこも預かってくれない事が理由で █████ がそれらの受け皿になっていることが苦しい事でもある。頼っていただけるのはありがたい事であるが、もう少し役所が介入して均等な分散をしていただけると大変助かります。